

一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと

－入院編、在宅編－

平成 27 年 3 月

くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会

入院編

ナレーション

村上慎吾さんは、早期の胃がんと診断され胃の切除手術を受けることになりました。村上さんにとって、入院・手術は初めての経験です。手術は勿論、その後の生活や再発のことなど不安な気持ちを抱えて入院までの日を過ごしていました。

〔入院当日〕

加代子 「どうぞ。」

佐藤薬剤師 「失礼します。」

佐藤薬剤師 「わたくし、薬剤師の佐藤と申します。村上慎吾さんですね。」

慎吾 「はい。薬剤師さん？」

佐藤薬剤師 「はい。村上さんの担当薬剤師です。ちょっとお話を伺いたいので座ってもよろしいですか？」

慎吾 「どうぞ。」

佐藤薬剤師 「失礼します。どうぞよろしくお願いいたします。」

慎吾 「こちらこそ。」

加代子 「やはり、薬もいろいろ使うようになるのでしょうか。」

佐藤薬剤師 「そうですね。今何かご心配なことはありますか？」

慎吾 「いやあ、仕事も休んでいますし、がんと言われて手術なんて・・・」

加代子 「主人、大丈夫でしょうか？」

佐藤薬剤師 「そうですね。いろいろご不安ですよ。手術と言われれば、尚更だと思います。」

慎吾 「ええ、やはり手術をしなければいけないのでしょうかね。薬だけでは難しいんですよね。成功するのでしょうか？」

慎吾 「手術をしても、その後の治療も長いと聞いているので・・・」

佐藤薬剤師 「手術の後のこともご心配なのですね。」

慎吾 「ええ。そうなんです。」

佐藤薬剤師 「通常、手術後は抗がん剤で治療を行っていきます。退院が決まって、お薬を使うようでしたら、もう一度詳しく説明にまいります。」

慎吾 「はい。」

佐藤薬剤師 「また、先生に村上さんが手術を受けることについて心配している事や、手術の必要性について、もう一度詳しく説明していただくように先生に伝えておきますね。」

慎吾 「そうしてもらえると助かります。」

加代子 「よろしくお願いします。」

佐藤薬剤師 「承知しました。何か心配な事はありますか。」

加代子 「大丈夫です。今はありません。」

佐藤薬剤師 「はい。これからの村上さんに適切で安全にお薬を使っていくために、いろいろお聞きしたいんですけど、もう少しお時間大丈夫ですか。」

ナレーション

薬剤師は、患者さんにいくつかの質問をします。特に副作用やアレルギー歴などは、とても重要な情報です。

〔翌日（手術前日）〕

ナレーション

薬剤師からは、手術前に使用する下剤や脱水症状予防のための手術前後の点滴の説明がありました。

佐藤薬剤師 「次に手術が終わったら、しばらくお口から食べたり飲んだりできないので、痛み止めのお薬も点滴を使います。」

慎吾 「点滴ですか？」

佐藤薬剤師 「はい。こちらの PCA ポンプという機械を手術後につないで、痛み止めの薬を投与します。」

佐藤薬剤師 「感染予防のための抗菌薬についてなんですけども・・・」

慎吾 「はい。」

佐藤薬剤師 「セファゾリンというお薬を使っていきます。」

佐藤薬剤師 「このくらいのプラスチックボトルに入っています。手術後 2 日間程度なんです。」

慎吾 「2 日間・・・」

佐藤薬剤師 「1 日 2 回、朝と夕方に点滴します。その後は、飲み薬に代わります。状況によって変わるかもしれませんが、その時はまた説明に来ます。お薬が体に合わないと『かゆみ』や『皮膚にぶつぶつができたり』、『息苦しい』などの症状が出ることがあります。お薬を使い始めて何か気になる症状が現れたら、すぐに病棟スタッフにお伝えください。」

加代子 「やっぱり、いろいろ薬を使うんですね。」

慎吾 「そうだな。でも、自分にどんな薬が使われるのか分かったので、ちょっと安心しました。」

佐藤薬剤師 「そうですね。この『くすりのしおり』は患者さんに読んでいただくために作っています。後でお読みになって、分からない点や不安なことがあればいつでもおっしゃってください。また伺いますので。」

慎吾 「分かりました。読んでおきます。」

加代子 「ありがとうございます。」

佐藤薬剤師 「じゃ、今日はゆっくり休んでください。もし、眠れないようでしたら、睡眠薬も用意していますので、いつでも遠慮なく看護師さんに言ってください。」

ナレーション

患者さんが入院や手術で不安を感じていることは薬剤師もよく分かっています。もし、薬のことで不安を感じたときは相談してください。

〔手術当日〕

ナレーション

村上さんの手術は無事成功しました。

〔手術翌日〕

佐藤薬剤師 「こんにちは。お話を伺っても大丈夫ですか。」

加代子 「あなた、薬剤師さん。」

佐藤薬剤師 「お加減はどうですか。痛みはありませんか。」

慎吾 「今は、痛くありません。」

佐藤薬剤師 「体にかゆみがあったり、湿疹とか、何か変わったことはないですか。」

慎吾 「かゆみはありません。『くすりのしおり』に書いてあった副作用は出てないですね。」

佐藤薬剤師 「よかったですね。ちょっと点滴を確認しますね。」

ナレーション

薬剤師は、使用薬剤の効果や副作用の確認だけでなく、点滴ラインやドレーンチューブなどのトラブルがないかを確認してくれます。

佐藤薬剤師 「針が入っているところも痛くないですか。」

慎吾 「痛くないです。」

佐藤薬剤師 「もし、痛くなったり、点滴が漏れていたらすぐに病棟スタッフに伝えてください。

この後も副作用には十分注意してくださいね。奥様も何か気になることはありませんか？」

加代子 「大丈夫だと思います。」

佐藤薬剤師 「わかりました。じゃ、また伺いますね。」

〔手術後6日（退院前日）〕

ナレーション

退院しても、しばらく薬を飲んでいく必要があります。薬剤師から、退院後に使用される薬や生活上の注意点などの説明があります。特に村上さんは胃の切除を行ったので、ダンピング症候群などの後遺症について説明がありました。

佐藤薬剤師 「気になることはありましたか。」

慎吾 「腸閉塞や貧血のことは分かったんですけど、初めて聞いたダンピング症候群のことが一番気になります。」

佐藤薬剤師 「そうですね。ダンピング症候群は、胃が小さくなったために、食事の後具合が悪くなる症状のことですね。予防するためには、食事療法が基本になります。食事の回数や1回の食べる量などを気をつけなければなりませんね。食事療法でも難しい場合には、お薬を使っていくこともできますので、いつでも相談してください。」

加代子 「よろしくお願ひ致します。」

佐藤薬剤師 「入院中に使用した薬剤などは、このお薬手帳に記入してあります。ところで、いつも利用されている薬局はありますか？」

慎吾 「ええ。友人からも『具合が悪くなった時に、かかりつけ薬局を作っておいたほうがいいぞ』って言われてましたよ。」

加代子 「おかげで、良い薬剤師さんがいらっしゃるところを紹介して頂きました。」

佐藤薬剤師 「それはよかったですね。」

加代子 「本当に、今回は色々な方にお世話になりました。」

佐藤薬剤師 「それではこのお薬手帳と、この封筒の中には今回入院中に村上さんに使ったお薬について詳しく書かれたものが入っています。どちらも薬局の薬剤師の方に渡してください。」

慎吾 「はい、分かりました。」

佐藤薬剤師 「この手帳で、薬局の薬剤師の方も村上さんの事が良く分り、安心して安全な治療を続けていくことが出来ます。この病院の連絡先も記載してありますので、何かあればいつでも私達に連絡がはります。心配いりませんよ。」

慎吾 「ありがとうございます。薬は大事だってことが、よく分かりました。薬剤師さんには、これからもお世話になりそうですね。」

佐藤薬剤師 「そうですね！」

加代子 「ありがとうございました。」

ナレーション

入院、手術、そして退院しても薬による治療は続きます。薬剤師は「薬のプロフェッショナル」。
患者さんに細やかに寄り添い、患者さんにとって最適な治療サポートをしていきます。

在宅編

ナレーション

患者とその家族が自宅で生活しながら治療を受けられるように、様々な医療関係者が在宅医療に携わっています。

その中で薬剤師はどのような役割を担うのでしょうか。

薬を定期的に服用して生活を送る人が増えてきます。しかし、薬局から出される薬と、生活習慣が合わなかったり、薬に対する不安や疑問を解消できず、悩みを抱える人も多いようです。

高橋良雄さんは、70才です。数年前、医師から高血圧と診断され、降圧剤を手放せない暮らしになってしまいました。

杉山薬剤師 「高橋さん。お待たせしました、お薬のご用意ができました。」

智子 「はい。」

杉山薬剤師 「あれ、今日をご本人ではないですね。」

智子 「そうなんです、診察が終わったら、さっさと帰ってしまって・・・。」

杉山薬剤師 「どうかしましたか？」

智子 「最近、外に出るのが面倒くさいみたいです。」

杉山薬剤師 「それは心配ですねえ、・・・とりあえず今日のお薬の説明をしますね。」

ナレーション

今まで、自分で薬を受け取りに来ていたのに、家族任せにする。ちょっとした変化ですが、何かのサインかもしれません。

[4週間後]

杉山薬剤師 「高橋さーん、お薬のご用意ができました。」

智子 「はい。」

杉山薬剤師 「こんにちは、今日もお一人ですか。」

智子 「はい。」

杉山薬剤師 「高橋さんのご様子はいかがですか？」

智子 「相変わらず外に出たがらないんですよ。」

杉山薬剤師 「散歩とか、気分転換にもなるんですけどね。」

智子 「そうなんですよね。」

ナレーション

薬剤師は、やはり高橋さんが薬に対して不安や疑問を抱えているのだと思いました。

杉山薬剤師 「以上で今日のお薬の説明は終わりです。何か気になる事や確認しておきたい事はありますか？」

智子 「・・・実は、最近、父が薬を隠しているようなんですよ。今までちゃんと飲んでいると思ってたんですけど、どうやら忘れてしまうみたいでこっそりしまっている所を見かけてしまったんです。」

杉山薬剤師 「そうなんですか。」

智子 「ええ、本人はちゃんと飲んでいると言い張るばかりで・・・」

杉山薬剤師 「ちょっと心配ですねえ。」

智子 「毎日こんな感じで、私も疲れてしまつて・・・」

杉山薬剤師 「あの、もしよろしかったら、私が直接お宅に伺って話をしてみましようか？」

智子 「えっ、そんなことしていただけるんですか!？」

〔翌日〕

智子 「はい。」

杉山薬剤師 「ひまわり薬局の杉山です。」

智子 「わざわざ、ありがとうございます。」

杉山薬剤師 「高橋さんの様子はいかがですか？」

智子 「何かぼーっとしていることが多くて、呼んでも返事をしないんですよ。」

杉山薬剤師 「そうですか。それじゃ、ちょっと失礼します。」

智子 「お父さん。薬剤師の杉山さんが来てくれたわよ。どうぞ、どうぞ。」

杉山薬剤師 「お邪魔します。高橋さん、こんにちは。」

良雄 「あれ、どうしたの、今日は。」

杉山薬剤師 「高橋さんが薬局に来ないから、様子を見に来たんですよ。」

良雄 「何だか嬉しいねえ。・・・さあどうぞこちらへ。」

杉山薬剤師 「それじゃ、失礼します。いつも元気な高橋さんが来てくれないと気になりますからね。」

智子 「今日はどうもすみません。どうぞ。」

良雄 「さ、どうぞ。飲んで。」

杉山薬剤師 「ありがとうございます。それでね、早速で申し訳ないんですけど、最近、お薬きちんと飲めてますか？」

良雄 「えっ、・・・えー、飲んでますよ。」

杉山薬剤師 「そうですか。それなら安心しました。」

良雄 「それならって？」

杉山薬剤師 「お薬を飲み忘れてしまう患者さんが意外と多いんですよ。」

良雄 「へえ、そうなんだあ。どうして忘れちゃうのかな、あんな大切な物。」

杉山薬剤師 「高橋さんは大丈夫ですよ。」

良雄 「いやあ、実はね、私も忘れてしまうことがあるんですよ。生活が不規則になると、決められた時間通りに飲むのがおっくうになってしまっただけでね・・・」

杉山薬剤師 「毎日きちんと飲むのは大変ですよ。」

良雄 「そう、そうなんだよね。自分じゃちゃんと飲まなきゃと思ってるんだけど、ついうっかり忘れてしまっただけで、それで娘にうるさく言われたんじや、こっちも気分悪くなっちゃいますよ。」

智子 「お父さんたら、・・・」

杉山薬剤師 「一生懸命飲もうと思ってるんですものね。」

良雄 「そうそう、だからね、飲み忘れた薬はそっとしまっちゃうんですよ。」

杉山薬剤師 「高橋さん。教えて欲しいんですけど、そのお薬は何処にありますか？」

良雄 「あ、今持って来るから、ちょっと待っててね。」

智子 「先生の言うことは素直に聞いてくれるので、驚きました。」

杉山薬剤師 「頭ごなしに言うよりも、一度相手の言うことを聞いてあげた方がいいですよ。」

智子 「今度から気をつけるようにします。」

良雄 「先生、これなんですけどね。」

杉山薬剤師 「あ、これですね。」

良雄 「ええー。」

杉山薬剤師 「ちょっとよく見せてもらえますか。このお薬、色変わってますね。これは大丈夫、あつ、これも古そうですね。高橋さん、このお薬一度薬局に持ち帰ってもいいですか？」

良雄 「えっ、これ全部古い薬だから？」

杉山薬剤師 「いいえ、まだ使えるお薬もあると思うから、薬局で整理します。それから、お薬手帳も何冊もありますよね？ 一冊にまとめますから、お預かりしてもいいですか。」

ナレーション

薬剤師が患者さんの自宅で行う仕事内容は、非常に多方面にわたります。薬の管理だけでなく、患者さんやその家族から受けた相談を医師や他の医療関係者と共有し、チーム医療の一員として患者さんのケアにあたります。

〔数日後〕

智子 「先日はありがとうございました。」

良雄 「こんにちは。」

杉山薬剤師 「高橋さんも一緒なんですね。」

智子 「先生とお話ししてから、きちんと薬を飲むようになってくれました。」

杉山薬剤師 「それは良かったですね。お預かりしたお薬をお渡ししますね。」

智子 「こんな風に整理すると分かりやすいですね。私も気をつけます。」

良雄 「結構あるんですね。」

杉山薬剤師 「ええ、まだ使えるお薬が沢山ありましたよ。」

良雄 「でも、自分でも何の薬を飲んでるんだか、よく分らないんですよ。」

杉山薬剤師 「そうですね。お薬の説明書も用意しました。『くすりのしおり』っていうんですよ。
わからないときはこれを参考にしてください。」

智子 「『くすりのしおり』ですか。」

杉山薬剤師 「これはとても便利で、見やすいんですよ。ご本人用とご家族用に2部用意してきました。
飲み忘れた時の対応方法も書いてありますし、智子さんもお薬の内容を理解して
おくと安心ですので、ぜひ読んでくださいね。」

智子 「ありがとうございます。しっかり読んでおきます。」

杉山薬剤師 「それでもお薬が飲めなかったり、何かあればいつでも相談してください。先生とお話
し
して飲み方を変えることもできますよ。」

ナレーション

在宅医療を行う薬局は、これから増えていきます。薬に不安を感じたり、体調の変化があった時は、
まず、薬局に相談してください。薬剤師は、患者さんお一人お一人の生活環境に合わせた薬を提案し
ます。

くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会 委員

☆三橋 能弘 (第一三共株式会社)

★程島 直子 (Meiji Seika ファルマ株式会社)

宮武 昌也 (大塚製薬株式会社)

栗原 理 (協和発酵キリン株式会社)

岸野 淳二 (塩野義製薬株式会社)

村上 道乃 (田辺三菱製薬株式会社)

工藤香代子 (中外製薬株式会社)

板野 祥明 (東和薬品株式会社)

☆委員長 ★副委員長

委員会アドバイザー

野村 香織 (日本医師会)

 【監修】

〔入院編〕

井手口 直子 (帝京平成大学 薬学部 教授)

金子 健 (慶應義塾大学病院 薬剤部 緩和ケアセンター専任薬剤師)

〔在宅編〕

伊集院 一成 (東京理科大学 薬学部 教授)

【事務局】

片山 厚、黒川 寛之、濱 由紀子、米澤 晴子 (くすりの適正使用協議会)

平成 27 年 3 月末



くすりの適正使用協議会

RAD-AR Council Japan

理事長 黒川 達夫

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-4-2 日本橋 N ビル 8F

TEL : 03-3663-8891 FAX : 03-3663-8895

ホームページ : <http://www.rad-ar.or.jp/>

くすりのしおり® : <http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>

国内で RAD-AR 活動を推進するため、研究開発志向型製薬企業によって 1989 年 5 月に結成された非営利団体です。医薬品のリスクとベネフィットを科学的、客観的に評価、検証する手法である薬剤疫学の紹介と啓発、医薬品の適正使用に資する医療担当者と患者さんとのコミュニケーションの促進、といった活動を中心に行っています。

RAD-AR 活動(Risk/benefit Assessment of Drugs-Analysis and Response)

医薬品に本来備わっているリスクとベネフィットを科学的、客観的に評価・検証し、その結果を社会に提示することで医薬品の適正使用を促し、患者さんのメリットに寄与すること

くすりの適正使用協議会の活動を支える会員

【会員企業】

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ・旭化成ファーマ株式会社 | ・大正製薬株式会社 |
| ・アステラス製薬株式会社 | ・大日本住友製薬株式会社 |
| ・アストラゼネカ株式会社 | ・武田薬品工業株式会社 |
| ・アツヴィ合同会社 | ・田辺三菱製薬株式会社 |
| ・エーザイ株式会社 | ・中外製薬株式会社 |
| ・大塚製薬株式会社 | ・東和薬品株式会社 |
| ・キッセイ薬品工業株式会社 | ・日本新薬株式会社 |
| ・協和発酵キリン株式会社 | ・ノバルティス ファーマ株式会社 |
| ・興和株式会社 | ・ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 |
| ・サノフィ株式会社 | ・マルホ株式会社 |
| ・塩野義製薬株式会社 | ・Meiji Seika ファルマ株式会社 |
| ・第一三共株式会社 | |

【賛助会員】

- ・シミック株式会社

【個人会員】

- ・大野 善三 (医学ジャーナリスト)
- ・三輪 亮寿 (弁護士)
- ・古川 隆 (医薬品コンサルタント)

平成 27 年 4 月現在